JACET関東支部SLA研究会主催公開講演会

国際語としての英語の語用論的指導：グローバル時代の多文化間交流に向けて

講師：**石原紀子先生（法政大学）**
開催日時：**12月21日（土）14：00－15：30**
講演形態：Zoomによるオンライン

参加申し込みサイト
https://forms.gle/AueadDBG9wg5wnJC8

12月18日（水）までにお申込みください。
お申込みいただいた方には、後日Zoomリンクをお知らせします。

＜講師略歴＞
早稲田大学教育学部英語英文学科・ミネソタ大学英語教育学科修士課程修了後、同大学院にて第二言語文化教育専攻、応用言語学(カリキュラム・インストラクション)博士。ミネソタ大学教育学部講師、アメリカン大学大学院英語教育学科助教授を経て、現在は法政大学市ヶ谷リベラル・アーツ・センターおよび経営学部教授。神田外語大学大学院英語教育学科およびミネソタ大学 Center for Advanced Research on Language Acquisition (CARLA) にて講師。多文化交流において自ら体験した失敗や困難をふまえ、多文化理解や語用論的指導、語学教員養成、多文化アイデンティティーなどを専門分野とする。近年は、モノリンガリズムや母語話者主義でないトランスリンガリズムを目指した語用論的指導や多文化アイデンティティー、航空英語の語用論における（イン）ポライトネスと意味の交渉、言語的正義、多様性・公平性・インクルージョン(DEI)や平和教育を念頭に置いた Peace Linguisticsの概念を採り入れた語学教育について学んでいる。書籍にTeaching and Learning Pragmatics: Where Language and Culture Meet, 2nd ed. (Routledge, 2022)、『多文化理解の語学教育 語用論的指導への招待』（研究社, 2015年）など。論文はModern Language Journal, TESOL Quarterly, Language Awareness, Multilingua, Journal of Pragmatics, Systemなどに寄稿。

＜講演概要＞
文法や発音は正しくても、文化や状況に沿ったことばの使い方ができなければ相手を傷つけたり怒らせたりしてしまうことがある。社会文化的コンテクストをわきまえ、文化的背景をふまえて適切に外国語を使用するためには、言語・文化的多様性や流動性の理解が必要となるが、そのような微妙な語用論的ことばの使い方はどのように習得・指導できるのだろうか。またグローバル化が進み、日常的に多言語を使い分けながら生活する多言語主義が広がる今日、モノリンガリズムや母語話者主義を超えたトランスリンガリズムを目標とするのであれば、そのような語学教育はどのようなものとなり得るのか。
本講演では、明示的語用論的指導の例や考え方を紹介するとともに、Taguchi & Ishihara (2018) および Ishihara (2024) ほかに基づき、グローバルな文脈を前提とした多言語語用論の指導における原則や例を提案する。多言語アイデンティティーや主体性、そして多言語話者のハイブリディティを念頭に置いた語用論的指導の可能性について、参加者とともに考える。

主催：JACET SLA研究会
共催：東京外国語大学　英語学習支援センター